

IBREA TIMES

2018/9/20

vol.03



IBREA JAPAN
International Brain Education Association

《 特集 海外 エルサルバドル政府最高賞受賞 》

- 脳教育でエルサルバドルの教育を変え
平和文化を醸成した功労 01
- 内戦の国から世界の教育の希望へ
中米エルサルバドルにおける脳教育 03

《 特集 日本 日本の脳教育活動ニュース 》

- 第5回 グローバルメンタルヘルスセミナー 特別インタビュー
地球経営マインドを持った
グローバルな人材を育てる脳教育 06
- 教育の方向性を決める脳教育 08
- 地球市民ムーブメントと
伝統・文化を生かした教育 10
- 活動案内 12

特定非営利活動法人IBREA JAPAN

発
行

〒462-0825

愛知県名古屋市北区大曾根4-16-5 IS大曾根3C号

TEL : 052-307-8276 / FAX: 052-933-7116

<http://ibreajapan.org/>

特集

World
海外

エルサルバドル政府最高賞 「ホセ・シメオン・カニャス賞」受賞

李承憲IBREA会長、脳教育でエルサルバドルの教育を変え、
平和文化を醸成した功労

校内で麻薬、暴力、殺人が起こるという教育環境だった中米エルサルバドルの教育を変え、平和の文化を醸成した功労を認められ、脳教育の創始者でIBREA会長の李承憲氏が9月12日（現地時間）、エルサルバドル政府最高賞であるホセ・シメオン・カニャス賞を受賞しました。

エルサルバドルは内戦終結後、教育改革を進めていました。2011年から公立学校に脳教育が導入されはじめ、教師と生徒が脳教育によって心身の健康を取り戻しました。また、全国成績評価が最下位だった学校が脳教育導入後に数学分野で1位になるという成果を出しました。 ➤



▲ エルサルバドルのサルバドル・サンチェス・セレン大統領（写真左）と面談した李承憲IBREA会長（同右）

▽ 2017年末現在で、エルサルバドルの公立学校の約25%にあたる1,200校で脳教育が実践されています。脳教育の効果と価値を体験したエルサルバドルの教師約500名が政府に推薦し、学校に平和の文化を醸成した功労を認められ、今回の受賞となりました。

ホセ・シメオン・カニャス (José Simeón Cañas) 賞は、人間の社会的、教育的、科学的、そして博愛主義の大きな実践をした自国民と外国人に授与されます。特に、人間の尊厳を高めて守った偉大な行動に対して国家的な感謝を表すために授与される賞です。



▲ ホセ・シメオン・カニャス賞を授与したカルロス・アルフレッド・カスタネダ外務大臣(写真左)とともに

李承憲会長は「2000年に国連本部本会議場で開催された国連ミレニアム世界平和サミットに参加し、平和の祈りを朗読しました。そのとき、決して祈りだけで終わらせない。平和を実践できるツールと方法を作って再び国連に戻ってくると誓いました。平和実践のためのツールが脳教育」とし、「エルサルバドルは脳教育で、生徒、教師、保護者と地域社会を変化させました。国の教育を変えて平和の文化を醸成するという肯定的な変化を

導き出しました。脳教育を教えている2000名以上の教師の皆さんに感謝します」と受賞の感想を述べました。

また、李承憲会長は「脳教育は東洋の伝統的な精神文化と21世紀の脳科学の融合によって生まれた、弘益人間の平和哲学にもとづく脳活用技術で、体験的教育方法論を備えている」とし、「誰もが持っている偉大な脳の価値に気づき、現実の中で創造していくことを願っています」と述べました。

日本でも学校関連施設141か所でキャリア教育、サマーセミナー、教職員研修などに脳教育が活用されており、企業、文化センター、老人ホーム、公園などを含めると、約700か所で脳教育が実施されています。IBERA JAPANでは脳教育セミナー「グローバルメンタルヘルスセミナー」を2014年から毎年開催しており、第5回となる今年は福岡市で変革期を迎えている学校教育に焦点を合わせて行いました。

セミナーでは、日本の学校教育に脳教育を取り入れたハッピーブレインスクールプロジェクトの結果も発表されました。福岡県飯塚市の小学校で4学年35名に3か月間、ブレイン体操、ブレイン瞑想、ブレインヒーリングを行ったところ、集中力、体温、自己肯定感が向上しました。また、78%の生徒が自らの変化を感じており、「イライラしなくなった」などの感想を小学4年生の子どもたちが本人の言葉で語っています。

国内事例を発表したハッピーブレインスクールチーフディレクターの田中ゆかり氏は、既存の学校教育に脳教育を取り入れる効果について「教師と生徒のコミュニケーションがより深まり、相互理解と共感性が上がることで、教育現場がより明るくリラックスした雰囲気になる」とし、「広い視野を持ち、他者を尊重して互いに高めあえる子へと成長することが期待できる」と述べました。

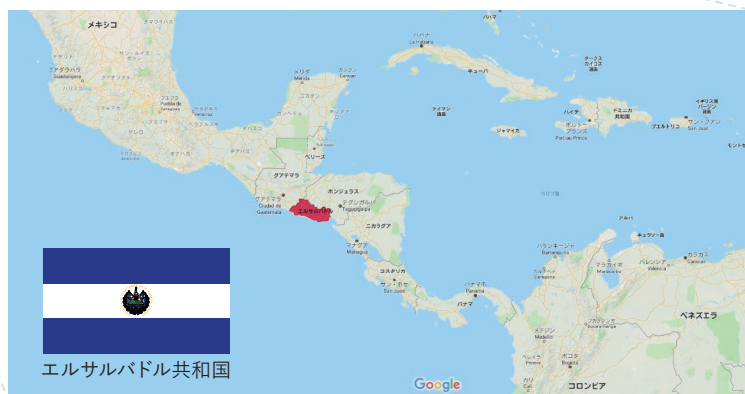


IBERA JAPANではハッピーブレインスクールプロジェクトのほか、脳教育で健康・幸せ・平和なまちづくりを目指すハッピーブレインシティプロジェクトも進めています。地方自治体と協力して高齢者の健康支援などを積極的に行っています。

ハッピーブレインスクールプロジェクト及びハッピーブレインシティプロジェクトに関するお問合せはIBERA JAPAN事務局まで。



内戦の国から世界の教育の希望へ 中米エルサルバドルにおける脳教育



エルサルバドル脳教育プロジェクト

- 2011年1月 国連脳教育カンファレンスにエルサルバドル大使が参加
- 2011年6～8月 首都サンサルバドルの1校で第1次テストプロジェクト実施
- 2012～2013年 4校140名を対象に第2次テストプロジェクトを実施
- 2013年 エルサルバドル全国教師対象教育が始まる。177校の校長が履修
- 2014年 242名が脳教育専門教員養成課程修了
- 2015年6月 指導課程をスタート。脳教育専門教育受講者の中から76名を選抜、脳教育指導士が誕生
- 2015年末 エルサルバドル全域を回って教師約1,000名をテスト
- 2016年12月 エルサルバドルで脳教育カンファレンス開催
教育省長官から約300名に脳教育専門資格証授与
2020年までにエルサルバドルのすべての学校6,033校に脳教育導入決定
- 2017年 脳教育専門教員養成プログラム履修者のべ2,357名、
脳教育実施校1,341校
(エルサルバドルの公立学校の25%)





主体的に学びながら“生きる力”を身につける方法として注目されている「脳教育」。脳教育の普及がたいへん進んでいる国の一つが、中米のエルサルバドルです。すでにエルサルバドルの公立学校の約4分の1にあたる1,341校が、教員向けの脳教育研修を実施。2,357名が脳教育トレーナー（脳教育専門教員）として認定されています。政府は、2020年までにすべての学校に脳教育を取り入れる方針です。

エルサルバドルで初めて脳教育が実施されたのは、2011年です。きっかけは同年1月に米ニューヨークの国連本部で開かれたIBREA主催の脳教育セミナー。出席したエルサルバドルの国連大使が脳教育の理念や実績に目をつけ、導入へと動き出しました。

エルサルバドルでは10年以上続いた内戦で政治や経済が混乱。内戦終結後も極度に治安が悪い状態が続き、子どもたちが抱く慢性的な心の不安やストレスが問題になっていました。エルサルバドル政府は、脳教育が子供たちの学力向上とメンタルケアの両方につながるとの期待から、試験的な導入を決めました。

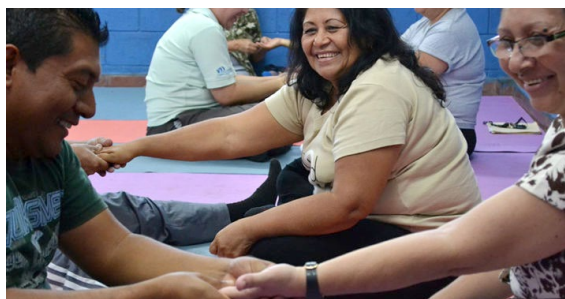
2011年6月から8月までの3か月間、首都サンサルバドル地域の1校で、試験的に脳教育の指導が行われました。プロジェクトに参加した子供39人は、学習能力を示す数値がアップし、自分の感情や生活態度をコントロールする「自己管理能力」も大幅に良くなりました。対人関係も改善し、ストレスの減少が確認されました。

この結果をふまえ、エルサルバドル政府は試験導入を拡大すべく、韓国の政府に支援を要請、本格的な試験導入が決まりました。また、同時に脳教育を行う人材の育成も始めることになりました。

2013年、177校の校長や保健医療専門家100名、各地域の教育委員会の指導主事14名が脳教育プログラムと地球市民教育を受けました。脳教育授業を受けた校長177名は平均10校を担当し、担当校の校長に教育を受けた通りに教えました。

2014年2月、校長や保健医療専門家などが脳教育課程を履修し、脳教育指導資格を獲得しました。全国14地域から選抜された





人を対象に第2次脳教育専門教員養成プログラムが行われ、2014年10月に校長、教師、学校保健医、健康管理者、教育省関係者など、242名が脳教育専門教員養成課程を修了しました。2011年から2014年10月までに、生徒を含む約700名が教育を受けました。

2015年6月からは指導課程を運営しています。2013年と2014年に脳教育専門教育を受けた人の中から76名を選抜し、集中トレーニングを行いました。彼らはすべての課程を終え、脳教育指導士として活動し、学校と地域社会に脳教育を普及しています。

2015年末、IBREA Foundationはエルサルバドル全域を回り、教師約1,000名をテストしました。彼らは2013～2014年にIBREA Foundationの脳教育専門教員課程を修了した校長や教師から脳教育授業を受けた教師でした。IBREA Foundationが直接教育した人は700名、脳教育専門教員課程修了者が教育した人が1,000名。当時、エルサルバドルの公立学校の10%が脳教育授業を実施していると言われていました。

2016年12月、これまでの成果を集めた「脳教育カンファレンス」を開催し、全国から参加した脳教育専門教員が自らの体験した変化を発表しました。この場に参加した教育省長官が約300名に脳教育専門資格証を授与しました。この場でエルサルバドル教育省はIBREA Foundationと2020年までにエルサルバドル全域のすべての学校6,033校に脳教育を導入することに合意したと発表しました。

2017年にはIBREA Foundationの脳教育専門教育を受けた人が601名に達しました。エルサルバドル教育省が脳教育を公式導入することにした2013年から2017年までIBREA Foundationの脳教育専門教員養成プログラムに2,357名が参加し、学校は1,341校でした。エルサルバドルの公立学校の25%で脳教育を行っているということになります。

エルサルバドルでは、今日も脳教育専門教員が自分が体験して変化したように、さらに多くの人が健康で幸せで平和になれるよう、脳教育を伝えています。2020年、すべての学校で生徒たちが脳教育を学ぶことを願いながら。



日本の脳教育活動ニュース

第5回グローバルメンタルヘルスセミナー

特別インタビュー

地球経営マインドを持った グローバルな人材を育てる脳教育

Happy Brain School Project 田中ゆかりチーフディレクター

ハッピーブレインスクールプロジェクトは日本の公教育に脳教育を取り入れる取り組みです。その第1号となった福岡県飯塚市の小学校での事例を発表した田中ゆかりチーフディレクターにインタビューを行いました。

ブレイン体操、ブレイン瞑想、 ブレインヒーリングで子どもに 変化が見られる理由は？

リラックスして、本来の自分自身に還ることが出来るからだと思います。年々加速する情報化社会に伴い、現代の子どもたちは知識詰め込み型教育と競争で体・心・

脳が緊張しています。また、ゲームやパソコンの使用頻度も高く、脳への過剰な刺激と運動量の低下により、低体温や姿勢の悪さ、内臓機能低下など、子どもの体の不調が多くなっています。いつも頭がいっぱいで体のエネルギーがなく、体感が少なくなっています。ブレイン体操は全身の気血循環を良くし、体を使って遊びながら、思考が少なくなり、体感が強くなります。体の中心「丹田」を鍛えながら、体のエネルギーを充満させ、ヤル気、元気を引き出していきます。その後の



Happy Brain School Project
田中ゆかりチーフディレクター

ブレイン瞑想では感情を止めて、脳波が安定し、今・ここに集中しながら、自己省察が出来るようになっていきます。いつも外に向いている意識を自分に向ける事で、自分自身について様々な気づきがあり、感情コントロールが出来るようになっていきます。リラックスした状態でブレインヒーリングをする事で、五感の感覚が更に増し、更にリラックスしながら、自分と周りとのコミュニケーションをとるようになります。疎通しながら、相手を思いやる気持ちが芽生え、人間関係が良くなっていきます。

子どもの自己肯定感はどうすれば育ちますか？

自分が自分の変化に気づき、それを自ら受け入れ認める事が出来る時に自己肯定感があがると思います。結果を褒めるのではなく、成長過程での変化を褒め、励ましながら、子ども自身が選択して成長するよう見守る根気と愛が大人には必要ではないかと思います。自己成長を認める事が出来る時、周りの期待に応えるためにやるのではなく、目標に向かっていく自分を誇らしく感じ、結果にとらわれずに堂々とした態度でチャレンジするようになると思います。

人間力とは？

今、最も社会で求められる資質が「人間力」です。魅力的な人を指すのではなく、知識を創造的に活用し、問題解決能力があり、広い視野を持ち、自身を世の中の為に活かす人です。コミュニケーションスキル、リーダーシップ、意欲、忍耐力、公共心、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力がある、そんな人間像。

脳教育の教員研修のポイント、特徴は？

子どもの立場でプログラムを体験、体感してもらい、自らの変化を感じていただきます。発達心理学の観点からの脳の話や、脳教育の原理を説明し、体験してもらうこと。既存教育に取り入れる為にどうしたら良いかを聞いています。

脳教育が教育現場にどんな役割が出来ると思いますか？

体・心・脳が健全になり、意識が肯定的になることで、既存教育の成果が上がると思います。脳教育を指導する教師と生徒のコミュニケーションがより深くなり、相互理解と共感力が上がる事で、教育現場がより明るく、リラックスした雰囲気になると思います。

子どもの脳教育に力を入れるようになったきっかけ、理由は？

心理学を学び、カウンセリングや様々なワークを通して、子どもたちの心身の健全な育成に努めてきました。脳教育に出会い、自分の価値を知り、私と社会と人類を生かす教育哲学に魅了されると同時に、現代に不可欠なものだと思いました。現代の若者の自己肯定感の低さ、ひきこもりや、うつ病の増加、ヤル気のなさなどの社会現象の原因の中でも教育が占める割合は多いと思います。子供の頃から脳教育を受けることで、現代社会問題の解決に役立つと思うし、既存教育に取り入れる事で教育改革が出来る実感したからです。

今後の計画、課題は？

アメリカNY州や、韓国、中米エルサルバドルでは、脳教育が公教育に導入され、社会貢献に役立っています。日本の公教育への導入に向けて、まずは脳教育講師養成に努め、講師を学校に派遣すると同時に、教職員研修を実施していきます。教師と一緒に脳教育授業を実施し、地球経営マインドを持ったグローバルな人材育成をする事が目標です。公教育への導入は時間がかかるかもしれませんが、活動を継続しながら、日本全国の学校で脳教育授業が一日も早くできるよう、頑張ります。

教育の方向性を決める脳教育

ソウル新上溪小学校 キム・ジンヒ教諭

学校には決められた課程があると思いますが、脳教育をどのように適用できますか？

身体活動と瞑想は、小学校では朝の授業前や休憩時間などに10分程度活用できます。1～2時間の正規脳教育授業は教育課程で定められている「創意的な裁量活動の時間」を活用します。週1回実施し、学期の初めには脳教育を導入した教育課程を学級または学年対象に組むことができます。また、脳教育は人間性または進路教育に含まれるので、その時間を活用することもあります。

中学校は自由学期制があり、週2～4時間を使うことができます。中学校は定められた科目が多いので、普段は脳教育に時間を割くのは難しいけれど、その代わりクラブ活動や「創意的な体験時間」を活用して脳教育を実施します。

学校の体育活動と脳教育のブレイン体操の違いは？

体育では、ボール運動のような道具を使った運動や陸上運動などの種目にわかれて体育活動が行われていますが、その他の体力管理という単位がありません。この単位の目標は子どもたちの体力を育てることで、自分の体力を測定し、体力を養える計画を立てて実質的に体力を養う単位なので、脳教育の教育内容とも一致します。韓国では中学校の体育の内容の中に瞑想が含まれた検定教科書もあり、自由に適用できます。

教育現場で教師の一番の悩みが子どもたちの自己肯定感をどう高めるかということです。この課題の解決法は？

自己肯定は、「できる」という自信から生じます。自信を感じるのには、言葉でできることではなく、できないと思っていた限界を超える体験を通して自分への確信、自分を信じる思いが大きくなっていきます。体で体験するのが最も早いです。

脳教育では、身体活動を通して限界を超える体験がプログラム化されています。腕立て伏せやHSP Gymという運動をしながら集中力を高め、自分が決めた目標を達成することによって限界を超えることができます。また、脳教育の特徴とも言える各自のプロジェクトは、心に関連する目標や勉強の目標など、自分が決めた目標に挑戦することです。このような体験を重ねると、自信が大きくなります。体験できるようにプログラムが組まれているのが脳教育の大きな長所です。

教育は百年の計といいますが、今、世界の教育は正しい方向に向かっていると思いますか？

変化のスピードがとても遅いとは思いますが、大きく見ると正しい方向を探して向かっていると思います。韓国にもそのような変化があります。教育改革、革新教育のような動きです。教育の方向性は、競争教育ではなく、個人がもつ可能性、自己肯定感、価値を実現できる教育に向かうべきです。そのような方向性を提示していますが、現実にはそれに合っていないので、掛け声で終わっており、変化が現れてはいません。それで、今、過渡期の症状があるのです。よいことは分かっていますが、思い切ってシステムを変えられない、過去の教育制度の中で最大限、子ども



ソウル新上溪小学校
キム・ジンヒ教諭

たちの自己肯定感を高め、価値を実現し、自信を高めるためになんとかしようと頑張っています。しかし、システムが変わっていない状態、人々の価値観が変わらない状態では、限界があります。脳教育をしていて感じたことは、可能性が見えるということです。本当にこれが正しい方向で、このように変化していけば子どもたちが能力を発揮し、本当に幸せになれるという可能性が多くのケースを通して見え、証明になります。その証明を通して人々も、この方向が合っている、こんな風に変えるべきだ、と共感するようになるのです。大変ですが、希望があります。もっとスピードがついて変化が早くなると思います。韓国の教育こそが競争教育の最前線であり、最も深刻ではないかと思います。韓国の教育で可能性が見えたら、世界の教育モデルになれると思っています。

教師のストレスは どう解決しますか？

教師も身体活動と瞑想をすべきです。身体活動と瞑想をすると、その日一日のストレスがとれます。しかし、根本的な解決のためには教師としての夢が必要です。私はこんな教師になるという夢や希望、目標がなければ、ただ日々を送っているだけです。その日のストレスは解消できますが、根本的な解決にはなりません。それが解決できないと、ストレスは繰り返されます。教師としての価値と夢、目標をもつと、日々生じるストレスはとても小さなものになります。

自分の意識が大きくなり大胆になると、日々のストレスが問題にはなりません。ストレスがたまる原因は、扱いにくい生徒に出会ったときや、難しい業務、他の教師との対立などですが、意識が大きくなると、本物を見る目が生じます。相手の言動に隠れている意味や本心、相手の価値を見出すことによってストレスをはるかに早く回復できる根本的な力が生じるのです。ストレスをなくせるのではなく、ストレスを無視できる力が生じます。そうならない限り、ストレスを解決することはできません。

脳教育が学校教育に どのように貢献できますか？

脳教育は生徒と教師が抱えているストレスをすばやく解決する効果があります。長期的には人々の価値実現、そして、自分一人ではなく皆に貢献できる人生を選択することが教育の目標になるように方向を定め、人々を目覚めさせるために、脳教育が大きく役立つと思います。教育の真の目標を脳教育は提示しています。誰でも心の中ではそのような目標を持ち、人のためになる人生を送りたいと思っています。心の中にはありますが、その心が目覚めていない人もいれば、その心が目覚めはしたけれど勇気がない人もいます。そんなときに脳教育で純粋さを回復し、心の力が大きくなると、誰でもそのような人生を選択できると思います。脳教育が今の教育を変える大きな力になるのではないかと思います。

地球市民ムーブメントと 伝統・文化を生かした教育

地球経営研究院 エマニュエル・パストリッチ院長

地球経営とは

環境破壊、戦争などの地球の危機は、消費的で無責任、非人間的な経営が原因です。地球経営は地球を中心とした経営です。地球全体のことを考えます。これから世界は国際化ではなく、地球化になるべきです。まだ地球を中心とした考えは常識にはなっていません。世界を考えると、多くの人々は国際株や投資、金融を考え、私たちが思うような地球のための行動については考えないかもしれません。

よりよい世の中、新しい世の中を作ろうと思って地球の問題や解決策の話をしたり、新聞に論説を掲載しても大して効果がありません。なぜかと言うと、多くの人々は地球のためのことにはあまり集中せず、何がなんだかよく分からない状態になっているからです。地球経営意識が必要になります。



地球経営研究院
エマニュエル・パストリッチ院長

どうすれば地球経営意識が 形成されるのか

地球を中心とした経営意識を持つためには自分の脳の主にならないといけません。そのためには自分を省察し、大きな意識を目覚めさせる瞑想が絶対が必要です。それは余計なことではなく、最も大事だと思います。そうでないと、皆が集中して将来のための計画が立てられない、地球に住んでいる共同体という意識が成立しないからです。そういう意味で、地球市民が行う人間性回復運動や教育・健康分野の活動は非常に大事だと思います。これからもっと力を合わせて行動し、日本、韓国、アメリカ、中国など、世界の地球市民が緊密に交流し、国家レベルではなかなか解決できないことが私たちの力で解決できると思います。皆さんと一緒に頑張れることは光栄だと思います。

地球市民ムーブメントの特徴と 地球経営研究院の役割

私は2005年からワシントンにある大学で講義をするかわら、韓国大使館の文化センターでアメリカ人に韓国文化を紹介する仕事もしましたが、それがとても楽しく、大学より楽しかったです。その頃から国際交流に関心を持つようになりました。勤めていた大学にも海外の大学の姉妹協定校がありましたが、実際の交流はありませんでした。しかし地球市民ムーブメントは、日本でもそうですが、韓国でもアメリカでも実際に熱心に活動していらっしゃる方が多いです。他の組織、大学、政府、NGOには見られない活動と雰囲気があります。そのため、地球経営研究院の院長として皆さんと一緒に、よりよい世の中にしていく活動をしていけることが、私には光栄で嬉しいです。地球経営研究院ではいろんなことを考えています。まず環境についてですが、地球上の浪費、ゴミや廃棄物など、私たちの子孫が暮らす100年後のことを思うと、今とんで

もないことをしています。政治家や有名人が、それを解決できるとは思いません。市民一人ひとりが力を合わせて活動するしかないと思います。日本全国、韓国とアメリカ、その他の国と一緒に、一所懸命頑張る必要があると思います。地球経営研究院では、環境の問題に関する取り組みや世界の伝統文化を再評価する活動を行っています。日本の伝統文化は、生態や教育、人と人の関係を非常に大事にしていたが、産業化によって失ったものも多いと思います。それを克服、あるいは回復するための努力が必要ですが、自分ひとりでは絶対にできませんので、皆さんと一緒にすることを楽しみにしています。地球をどうやって営むかについて深く悩んでいます。地球経営研究院では、地球市民ムーブメントに必要な研究、資料、証明など、中身を提供する役割をします。いろんな国と力を合わせて活動すればシナジー効果があると思います。

環境問題の解決のための 地球市民ムーブメント、 Think Globally、Act locally!

アメリカの環境学者のガス・スベスと環境問題について話した時、人間の欲望をどうやって管理していくのか、つまり考え方が何より問題だという結論でした。環境問題は人格の修養や哲学で解決できると言うのです。実に環境問題は核心的な問題です。技術でも政策でもありません。昔の人は100年、200年先の子孫のことを考えましたが、今はそうではなくなりました。プラスチックの問題も同じ悩みです。やはり長期的に共同体で生協などを作って金属やガラスのみを使い、プラスチックは一切使わないことが考えられます。今は地球市民がまだ少ないですが、100万人になればそれは充分可能だと思います。共同体で米や野菜を栽培して共同体の経済圏が作られると、地球環境のための望ましい動きができると思います。今はまだ模範の生活が立ちませんが、今後、浪費せずにものを大切にする習慣を身につけながら、多くの人に伝えていけばよいと思います。環境の問題を解決するための精神的な動きと文化の変化はどうすれば良いか分からないとおっしゃいましたが、今まさに地球市民がそれを行っていますね。自分の精神状態を変えるにはどうすればよいかについては、一指李承憲先生の『CHANGE』という本に詳しい説明があります。自分がまずチェンジして、家族とまわりをチェンジして、一定の臨界質量に達すれば環境を中心とした生活ができるようになります。まだそこまではいっていませんが、でも遠くはありません。Think Globally、Act locally! これが地球市民のスピリット

だと思います。最も大事なのは自分の地域で活動することですが、そうしながら他の国との協力も必要です。外国ばかり考えて地域での活動をしないと効率が悪い行動になります。具体的にどのような協力ができるかはこれからの課題で、良い意見を是非聞かせてほしいです。

教育の危機と 伝統教育の再発見

今の大学は性質が変わり、企業のようになっています。なるべく多くの学生を誘致して早く卒業させてお金をもうけるという場所になり、教育ではなくなっているところが多いと思います。以前とは違って就職と直接関係のある科目が優先になったため、環境、文化、哲学のような科目は関心があっても履修しなくなっています。教育者としては苦しい現実です。日本の伝統には、寺子屋という共同体の教育制度がありました。習字や朗読もして、多様な学びのできる教育でした。倫理や道徳のコンテンツがあり、人間性を育てる教育、自然とともに生きる教育、つまり私は個別の存在ではなくすべてとつながっているという考えがありました。今の市場経済では物は物で自分とは関係ないと認識します。いくらでも使い捨てても自分には責任がありません。それは現代人の考えで、昔の人はそうではありませんでした。伝統の教育が全部良いとは言えませんが、物を大事にして浪費しない、人との関係や自然を大切にすることの伝統の思考は生かしてほしいと思います。地球市民ムーブメントは今までになかった新しいムーブメントですが、前に進みながら、同時に昔の良い環境を中心とした伝統的な文化や生活を再発見する面もあります。何百万年もの間、自然環境と調和のとれた共存がとてよくできていました。環境の問題は、ここ70年くらいの問題で、それを克服するには、新しい技術、新しい生活、新しいインターネットのネットワークなどが必要ですが、もともと日本にあった文化を再発見して生活に生かすことも必要です。日本は昔から米一粒も大事にして、物と人間を区別せずに一体と認識していた素晴らしい文化があります。私たちが、その両面を生かして進んでいけばいいのですが、それは簡単ではありません。伝統の価値観の確認もしながら、脳の主として新しく創造していくのです。私たちの活動は簡単にできることはありません。長期的に様々なことを悩む必要があります。自分の脳の主として、自分と自分の子ども、自らが属する共同体のために、熱心に活動するのは非常にためになりますし、革命的な変化だと思います。それは自分の脳によって決まるのです。

IBREA JAPAN 主な活動

教育現場

キャリア教育
サマーセミナー
教職員研修
PTA



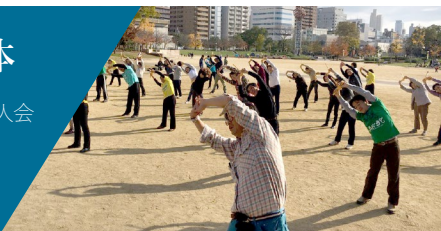
高齢者施設

認知症カフェ
120歳クラブ



自治体

婦人会、老人会
行政機関
職員研修



セミナー

脳教育
メンタルヘルス
健康寿命



日本に広がる脳教育 実施場所 約500カ所、3年で約5万名が体験・実践

脳教育は現在、日本で、学校関連施設141カ所をはじめ、企業、文化センター、老人ホーム、公園など約700カ所で実施されており、この3年だけでも約5万名が脳教育を体験・実践しています。

実施場所
700カ所

(2018年7月現在)

体験者
5万人

(2016～2018年7月現在)

講師
1,530名

(2018年7月現在)

ブレイントレーナー派遣受付中

IBREA JAPANでは、脳教育の原理やブレイン体操指導を希望する団体様に出張講習会やブレイントレーナーの派遣を行っております。職員教育や研修などにご好評をいただいています。お気軽にご相談ください。☎052-307-8276



IBREA JAPAN
International Brain Education Association

【特定非営利活動法人IBREA JAPANについて】

特定非営利活動法人IBREA JAPANは、国際脳教育協会(International Brain Education Association: IBREA 会長 李承憲)の日本支部として1997年に活動を開始。2007年1月にNPO法人として登録しました。今日の発達した科学技術文明が人間の脳の創造性から始まったように、人類の直面している危機を解決するカギも人間の脳の中にあるという認識にもとづき、平和な脳をつくる哲学、原理、方法論を備えた「脳教育」の必要性和価値を社会に伝えることによる、人類のよりよい未来づくりを目指しています。

ブレイントレーナー派遣



小学校～大学、各種団体、企業にブレイントレーナーを派遣しています

ブレイントレーナー資格の発行



ブレイントレーナーは健康な人生を送る脳活用法を習得したスペシャリストです

脳教育セミナーイベント



「脳教育」の有用性を知り、実際に体験していただくために全国で活動しています



◀ IBREA JAPAN公式サイト

国連報告書

「国際脳教育協会
持続可能性報告書
2016」
もご覧いただけます

発行

特定非営利活動法人IBREA JAPAN
〒462-0825
愛知県名古屋市中区大曾根4-16-5 IS大曾根3C号
TEL : 052-307-8276 / FAX: 052-933-7116
<http://ibreajapan.org/>